

駅前商業地域内の自治会地区における住民との住環境実測調査と懇談会

住民自らの住環境改善行動の促進を目的とした自治会との共同実測と住民意識に関する研究 その2

自治会 住民参加 アンケート調査
二酸化窒素 路上駐車 街灯照度

準会員 近藤良一*¹ 正会員 伊東真悟*²
正会員 関 創平*³ 同 森 正人*⁴
同 三浦昌生*⁵

1. はじめに

前報に引き続き本報では Case 1 として、四丁目町内会地区を対象とした各住環境実測調査およびアンケート調査の結果と、それらの結果をもとに住環境について話し合った懇談会について報告する。

2. 二酸化窒素濃度調査

2003年12月17日(水)20:00~18日(木)20:00に同地区において、自治会住民による二酸化窒素濃度調査を行った。測定方法は、試薬を含ませたカプセルを24時間大気に放置することで、二酸化窒素の補集量を実測するものである。実測調査に使用するカプセルは封筒に入れ、会長から各班の理事を通じて各住戸に配布し、同様に回収は各班の理事が各住戸から回収した。封筒に調査の開始と終了時刻を明記することで、実測調査時間の間違いが減るよう配慮した。カプセルの放置時間は24時間を原則としたが多くの住民の参加を促すため、実測の開始・終了時刻を20時の前後1時間ずつまでは変更可能とした。実測は自由参加とし、176世帯(参加率46%)の住民が参加した。また、実測の精度を高めるために住戸のない校庭や駐車場内に9点設置し、計

185点で実測を行った。二酸化窒素濃度のメッシュマップを図1に示す。実測値は概ね0.025~0.035ppmであった。幹線道路(図1のA)沿いは当初の予想に反して濃度が低かった。実測参加者に聞いた感想を表1に示す。結果の報告を望む声が多く聞かれた。

3. 路上駐車調査

2004年1月に路上駐車調査を行った。調査方法は、7:00~19:00の間で1時間毎に地区内の路上駐車の数进行调查した。事前に自治会役員との話し合いにおいて路上駐車が多いと思われる箇所に絞り調査を行った。また、住民の歩行の妨げになるという観点から停車車両も含むものとした。

調査結果を図2に示す。図2のBの道路は小学校の通学路にもなっているガードレールの無い一方通行道路であるが、路上駐車は非常に多い。歩道にのりあげて駐車している車両が多く、歩行者は車道を通行せざるを得ない状況となっており大変危険である。図3は1時間毎の路上駐車量の経時変化である。12時における路上駐車量が最も多くなった。調査時間が平日の終日を費やすため、今回の調査では住民参加が得られなかった。調査方



図1 二酸化窒素濃度のメッシュマップ

表1 二酸化窒素濃度調査に関する感想(抜粋)

- ・ 空気汚染に関心がない訳ではないが商業地域内の住宅なので意識が薄れている感はある。
- ・ 研究の成果が少しでも前進して地球が何年後かでも、きれいになることを期待している。地道だと思いますが頑張って下さい。
- ・ 自宅付近の空気汚染がどの程度か知りたい。
- ・ 平日と土日は車の通行量が違うので一日だけでは分らないと思う。
- ・ 24時間後に蓋を開めるのを忘れないようにすることが大変だった。
- ・ 空気の汚れは目に見えないだけに怖いと思う。少しでも良い環境を子供たちにと皆がもっと(私も)関心を持たなければと思った。
- ・ 駐車場の近くに住んでいるので空気汚染が気になっていた。結果報告が早く知りたい。



図2 7:00~19:00における路上駐車量

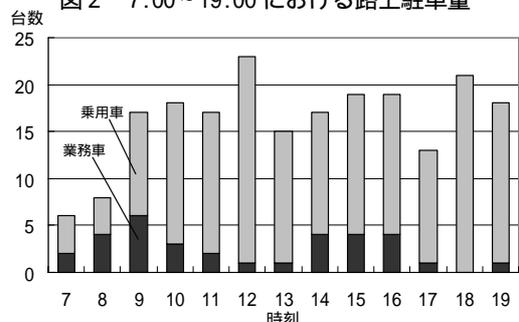


図3 路上駐車量の経時変化

A Field Survey on the Living Environment by Residents and a Discussion with Residents in the Commercial District near Railway Station
A Study on the Promoting for Improving own Living Environment based on the Collaborative Survey Data and Residents' conscious with the Residents' Association Part2

KONDO Ryoichi, ITO Shingo, SEKI Sohei, MORI Masato and MIURA Masao

法について住民参加を得られるよう検討する必要がある。

4. 夜間街灯照度実測調査

同年1月に同地区において、夜間の街灯照度実測調査を行った。計測時間は18:00~19:00とし、実測にはデジタル照度計を用いた。計測点を街灯真下の道路上に設置し、全105点の水平面照度を実測した。夜間の街灯直下の水平面照度を図4に示す。全体として照度は幅広く分布し、概ね防犯照明の推奨照度3(lx)を超えていた。3(lx)に満たない街灯は7点あり、うち2点は故障していた。この調査においても住民参加が得られなかった。

5. 第2回アンケート調査

同年1月に住民の実測調査後の意識を把握するため、同地区の全381世帯を対象にアンケート調査を行った。その際、アンケート票とともにこれまでの調査結果をまとめた住環境調査結果報告書を同封した。アンケート項目は住環境調査結果に対する意識や住環境新聞についての意見を問う内容で構成した。

アンケート票は町内会長から各班の理事を通じて各住戸に配布し、同様に理事を通じて回収を行った。その結果、184世帯(回収率48%)から回答を得た。住環境に対する意識と実測値を比較した印象を図5に示す。騒音に関しては「意外にうるさい」、「意外に静か」をあわせた回答が50%となり、夜間街灯照度に関しては「意外」側の回答が48%となった。住民が実測値と普段実感している意識を比較し、同地区の住環境要因について理解を深め、把握できたと推測できる。交通量や路上駐車に関しては「予想通り多い」の割合が高くなった。次に住環境実測調査に対する意識を「認知」、「関心」、「行動意志」に分けて聞いた結果を図6に示す。認知度は「知っている」側の回答が82%と非常に高く、関心度についても「関心がある」側の回答が57%と高くなった。一方、行動意志については「どちらとも言えない」が6割以上を占めており、「参加したい」側の回答は23%にとどまった。認知や関心度は高いと言えるが、それらをどのように行動につなげていけるのかが今後の課題といえる。

6. 住民との懇談会

同年2月、四丁目町内会館において懇談会を開催し、これまでの実測調査結果を報告した。懇談会開催の告知は第2回アンケート調査の際に案内を同封し全世帯に配布した。懇談会には

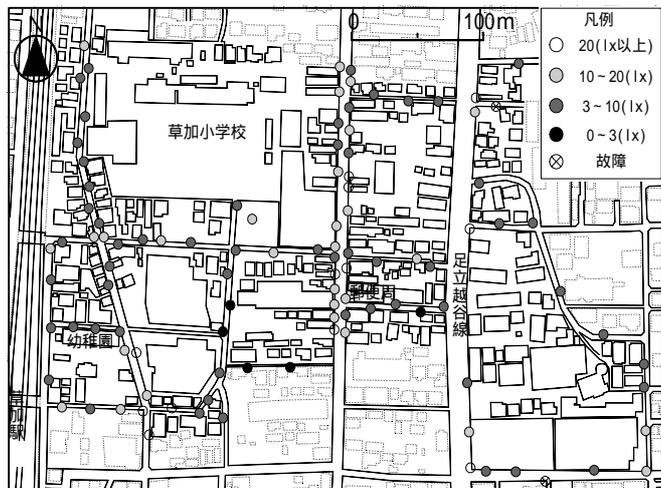


図4 夜間における街灯直下の水平面照度

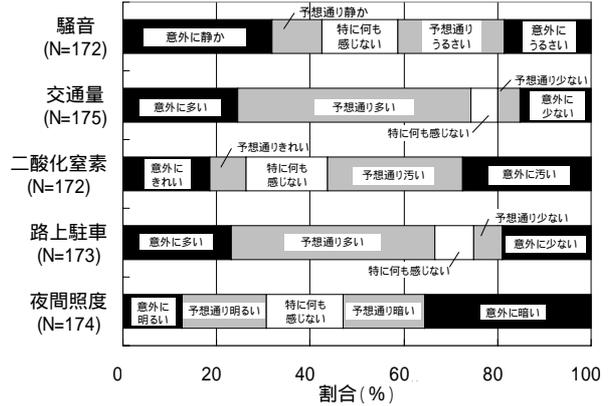


図5 住環境に対する意識と実測値を比較した印象

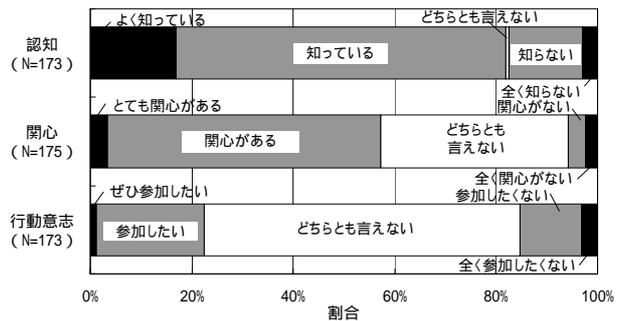


図6 住環境実測調査に対する意識

表2 住民との懇談会における主な意見・感想(抜粋)

- ・実測は季節や時間帯を変えて測ると違う結果が出るのではないかと。
- ・思い込みだけで自分たちの町をこんなものだろうと思っていたが、調査を通じて思いのほかの現実があることがわかった。
- ・住民に調査結果を報告することにより住民の意識をより高めていければ、さらに住環境は良くなると思う。
- ・路上駐車への対策としてガードレールの設置があげられるが、商店街としては似つかわしくない。
- ・狭い道路を広くすると防災面では良いが住環境は確実に悪くなる。
- ・街灯の暗い箇所については、明るくなるように陳情したい。
- ・自治会のがんばりが行政を動かす原動力になる。
- ・調査により住環境の改善点が明確となり、説得力のある資料となった。これらの資料をもとに行政に改善要求していく必要がある。
- ・実測結果は5年後、10年後に住環境がどのように変化したかを知るうえで非常に貴重な資料になる。
- ・なごやかな懇談会で非常に良かった。

16名の住民が参加した。各住環境実測調査の結果を順に説明し、その都度住民から意見や質問を収集した。会の冒頭で住環境マップに懇談会参加者の住宅所在地を記入させ、住民の発言を促すきっかけとしたところ活発な発言が相次いだ。アンケート調査において他地区の結果も知りたいとの要望があったため、あわせて報告した。懇談会で得られた意見・感想を表2に示す。街灯照度など改善できるところから改善したいとの意見が出た。

本研究で得られた実測調査結果をまちづくり協議会と共有し、今後のまちづくりに生かしていきたいとの意見が自治会側から出された。自治会だけにとどまらず、まちづくり協議会への活動として位置づけ、住環境改善行動が展開されることとなった。

本研究は科学研究費補助金基盤研究(C)「住民との協働に基づく地区環境計画の基礎となる環境マップの試作」(研究代表者:三浦昌生)によるものである。

*1 芝浦工業大学学部生
 *2 東和産業株式会社(当時芝浦工業大学学部生)
 *3 芝浦工業大学大学院修士課程
 *4 トヨタ東京整備専門学校(当時芝浦工業大学学部生)
 *5 芝浦工業大学システム工学部環境システム学科 教授 工博

Bachelor Student, Shibaura Institute of Technology
 TOWA-JS INCORPORATED
 Graduate Student, Shibaura Institute of Technology
 TOYOTA-Japan Automotive Engineering College
 Prof., Department of Architecture and environment Systems, Shibaura Institute of Technology, Dr.Eng.